

■ 原著 ■

大学生の職業興味と認知様式

藤岡 秀樹*

(1987年1月20日受理)

Hideki Fujioka

Vocational Preference and Cognitive Modes of University Students

大学生に、HollandのVPI職業興味検査と、Pavlovの信号系優位の類型の学説に基づいた認知様式質問紙(CMQ)を実施し、両者の関係を調べた。

主な結果は、①VPIのR(現実的)尺度とI(研究的)尺度については、理科系学生が文科系や教育系学生よりも得点が高く、S(社会的)尺度とC(慣習的)尺度については、文科系学生が理科系学生よりも得点が高かった。②CMQの結果では、理科系(とりわけ理工系)学生の得点が最も低く、思索家型傾向を示し、文科系学生の得点が最も高く、芸術家型傾向を示していた。③芸術家型群は思索家型群と比べて、VPIのA(芸術的)尺度において有意に得点が高く、R尺度において有意に得点が低く、I尺度において得点が低い傾向が見出された。

[キーワード] VPI職業興味検査, 認知様式質問紙(CMQ), 芸術家型, 思索家型

問 題

青年に対する職業指導や進路指導において、職業適性検査や職業興味検査を活用することは多い。職業的価値観の発達に伴い、職業興味も変動するが、進路選択に際して、適切な情報の獲得の必要性とともに自己理解が必要となってくる。近年、青年の社会参加への消極性やモラトリアムが問題となっているが、開発的カウンセリングの立場から、職業的自己実現(vocational self-actua-

lization)をはかる必要性も強まっている。

職業的自己実現のための自己理解の手法としての職業興味検査の開発とその妥当性の検討も求められている。

最近、Holland(1973)の職業選択理論に基づいた職業興味検査(VPI; Vocational Preference Inventory)の日本版の開発が、雇用職業総合研究所(1985)によって行なわれた。Hollandの職業選択理論は、①職業選択はパーソナリティの表現であること、②特定の職業的環境にい

* 岩手大学教育学部心理学科

る人々は、類似したパーソナリティ特性とパーソナリティ形成史を示す傾向が強い——といった概念の枠組からなりたっている。

Holland は、職業興味の調査はパーソナリティを調べることでありという前提に立ち、6つのパーソナリティと生活環境のタイプを考えている。それらは①現実的 (Realistic)、②研究的 (Intellectual)、③社会的 (Social)、④慣習的 (Conventional)、⑤企業的 (Enterprising)、⑥芸術的 (Artistic) であり、VPI ではこの6つを興味領域尺度として設定している。また、傾向尺度として、①自己統制 (Self-Control)、②男性-女性 (Masculinity-Femininity)、③地位志向 (Status)、④稀有反応 (Infrequency)、⑤黙従反応 (Acquiescence) の5つをとりあげ、職業に対する態度や検査の信頼性を測ろうとしている。

本邦でのVPIの研究では、渡辺・松本・館・松本 (1982) が、6つの領域尺度の日本人と米国人の比較を行なったところ、概して内部相関や平均値は類似していた。渡辺・松本 (1981) は、EPPSで測定された欲求とVPIのパーソナリティタイプとの関連を調べている。

ところで、Pavlov (1955) は、条件反射学の成果から信号系の相対的優位による2つの認知の型を提唱している。それは、第1信号系 (非言語) が第2信号系 (言語) に比べて優位な芸術家型とその逆の思索家型である。ソビエトの研究者による2つの型の特徴は坂野 (1975) が詳しく紹介しているが、両者を対比すると表1の様になる。

坂野 (1977) は、Pavlovの学説とその発展に関する文献より、芸術家型と思索家型についての記述を6対選び、認知様式質問紙 (Cognitive Mode Questionnaire; CMQと略す) を作成し、大学生の所属学部間の比較や中学生から大学生までの発達の検討を行なっている。その結果、理学部学生は文科系学部生に比べて思索家型傾向が強く、音楽大学生は最も芸術家型傾向が強いこ

と、中学校3年間では認知様式の変動が大きく、安定しにくいことを見出している。

上述のPavlovの提唱した2つの認知型は、VPIで測られる職業興味領域の一部の尺度と関連が強いことが示唆されよう。即ち、芸術家型の被験者は思索家型の被験者と比べて、VPIのA(芸術的)尺度の得点が高く、I(研究的)尺度の得点が低いのではないだろうか。

本研究では、VPI(主として興味領域尺度)とCMQの得点の専攻による差異の検討をまず行ない、次いで上述の仮説の検討を行なうことを目的とする。これらの分析は、VPIの妥当性の検討に相当すると考えられる。

表1 Pavlovによる認知様式の2つの型 (坂野, 1985)

思索家型	芸術家型
言語的	非言語的、形象的
抽象的	具体的
分析的	印象的、知覚的
論理的	印象的
理論的	想像的、叙事的
抑制のきいた	感受性の高い

方 法

1. 被験者

近畿地方と岩手県に在学する大学生198名 (男子137名、女子61名) を被験者とした。被験者は「青年心理学」「職業指導」「心理測定」のいずれかの受講生であった。被験者の内訳は表2に示す通りである。専攻別にみると、理工系63名、薬学系25名、農学系9名、教育 (教員養成学部) 系51名、経営系20名、言語系30名である。

表2 被験者の内訳

大学名	学部	男子	女子	計
岩手	工	10	0	10
	農	7	2	9
	教 育	4	15	19
滋賀	教 育	12	20	32
立命館	理 工	34	0	34
	経 営	9	5	14
摂南	工	18	1	19
	薬	12	13	25
	経 営 情 報	5	1	6
	国際言語文化	26	4	30

2. 材 料

(1) 職業興味検査

HollandのVPI (Vocational Preference Inventory) の日本版(雇用職業総合研究所, 1985)を使用した。本検査の対象は大学生である。160の職業名を提示し、「興味を持ったり、関心を引くような職業」と「嫌いだったり、興味がないような職業」を選択させるようになっている。6つの興味領域尺度と5つの傾向尺度の概要を表3に示す。

(2) 認知様式検査〔CMQ〕

信号系優位の類型に関するPavlovの学説に基

づいて、坂野(1977)が作成したものをを用いた。対になった質問文のどちらが自分の認知様式により近いか、判断させるものである(どちらか決めかねられない時は、「中間である」という項目を選択できる)。〔付表1参照〕

3. 手続き

立命館大学と滋賀大学の被験者¹⁾を除いて、筆者の担当する授業の中で集団実施された。VPIは20分、CMQは5分を制限時間とし、各被験者の自己ペースで回答を行なわせた。両検査とも、1985年12月と1986年9月、12月に実施された。

表3 VPIの各尺度の概要

興味領域尺度	①	R 尺度	現実的興味領域	機械や物体を対象とする具体的で実際的な仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す尺度。
	②	I 尺度	研究的興味領域	研究や調査のような研究的、探索的な仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す尺度。
	③	S 尺度	社会的興味領域	人に接したり、奉仕したりする仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す尺度。
	④	C 尺度	慣習的興味領域	定まった方式や規則を重視し、それに従って行動するような仕事とか、反復的な事務的色彩の濃い活動などに対する好みや関心の強さを示す尺度。
	⑤	E 尺度	企業的興味領域	企画とか、組織運営や経営などの仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す尺度。
	⑥	A 尺度	芸術的興味領域	音楽、美術、文学などを対象とするような芸術的領域での仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す尺度。
傾向尺度	⑦	Co 尺度	自己統制傾向	個人が自分の衝動的行為や考えをどの程度統制しているかを示す尺度。
	⑧	Mf 尺度	男性-女性傾向	男女を問わず、一般に男性が好む職業にどの程度強い関心を持っているかを示す尺度。
	⑨	St 尺度	地位志向傾向	個人が社会的威信や名声、地位や権力などに対して、どの程度強い関心を持っているかを示す尺度。
	⑩	Inf 尺度	稀有反応傾向	人々が、一般にあまり興味をひかないような活動とか、仕事に対する個人の関心の程度を示す尺度、また、この尺度で回答の信頼性をチェックすることができる。
	⑪	Ac 尺度	猥從反応傾向	多くの項目で、肯定的に反応する傾向を示す尺度、また、この尺度で回答の信頼性をチェックすることができる。

表4 VPIの専攻別の得点(偏差値)

	言語系 N=30	経営系 N=20	教育系 N=51	理工系 N=63	農学系 N=9	薬学系 N=25
R	49.67 (9.24)	51.55 (10.84)	47.00 (8.98)	57.30 (10.00)	55.44 (8.80)	61.68 (12.11)
I	48.23 (8.62)	52.80 (10.59)	47.30 (8.83)	53.38 (10.20)	56.11 (12.44)	57.68 (8.04)
S	54.80 (10.95)	61.15 (11.76)	54.10 (10.11)	51.73 (11.23)	47.33 (5.91)	51.20 (7.37)
C	54.57 (12.01)	58.25 (12.20)	53.75 (10.20)	50.14 (8.17)	47.00 (6.75)	53.32 (8.93)
E	50.93 (10.10)	54.40 (12.14)	46.90 (9.72)	51.03 (9.22)	46.89 (6.37)	54.60 (9.66)
A	51.27 (8.76)	52.00 (10.70)	48.75 (9.63)	50.16 (10.00)	51.33 (7.96)	53.76 (9.24)
Co	47.10 (9.40)	49.35 (10.62)	53.76 (9.18)	48.11 (9.17)	49.11 (7.14)	45.32 (7.78)
Mf	47.20 (8.10)	49.20 (10.51)	44.16 (8.63)	55.13 (8.05)	51.00 (6.02)	54.88 (8.74)
St	50.63 (8.17)	51.95 (9.91)	50.43 (9.64)	53.40 (8.30)	52.22 (7.94)	53.56 (9.13)
Inf	49.93 (12.24)	50.10 (11.07)	52.33 (14.63)	50.86 (9.88)	52.11 (10.84)	52.56 (11.38)
Ac	53.33 (7.58)	57.85 (12.78)	48.70 (8.27)	54.48 (8.71)	54.00 (8.03)	59.96 (9.15)

()内はSD

結果と考察

1. 結果の処理

VPIは手引きに従い、まず粗点を各尺度ごとに求めた。標準化集団における各尺度の平均値と得点分布には性差がみられるので、付表2の標準化データに基づき偏差値(T得点)を算出した。

CMQは、それぞれの質問に対して、芸術家型の項目に2点、中間型の項目に1点、思索家型の項目に0点を与えた。得点は0~12の範囲に分布し、高得点ほど芸術家型の傾向が強いのを示す。

2. VPIの分析

表4に専攻別の各尺度の偏差値の平均と標準偏差を示す。

R(現実的)尺度は、理科系が文科系に比べて得点が高く(とりわけ薬学系)、教育系が最も低い。R尺度は機械や物を対象とする具体的で実際的な仕事や活動に対する好みや関心の強さを測っているため、理科系の被験者が文科系よりも得点が高くなるのは妥当な結果であるといえよう。薬学系が理工系より得点が高いのは奇異に感じるが、後述するAc(黙従反応)尺度の得点が高いことによる影響であろう。

I(研究的)尺度は、理科系が高く、言語系と教育系が相対的に低い。教育系はAc尺度の低得点の影響を受けていると考えることも可能である。文科系のなかでは経営系の得点がやや高いが、I尺度には、情報処理や社会調査研究の職業が含まれていることより、この結果は理解できよう。

S(社会的)尺度は、経営系がかなり高い。対人接触や奉仕に関係する職業が含まれている。教育系よりも経営系の方が得点が高いことは、意外な結果であるといえよう。

C(慣習的)尺度は、文科系とりわけ経営系で高得点を示している。C尺度は定まった方式や規則に従って行動するような好みや関心の強さを測っているが、経理や一般事務系の各職業が含まれている。経営系の得点の高さは、学生の就職や職業意識と合致しているからだといえよう。

E(企業的)尺度は、理科系では薬学系、文科系では経営系が高く、農学系と教育系が低い。E尺度は企画や組織運営、経営などの職業が含まれ、経営系の高得点も妥当だといえよう。薬学系が高いのは、Ac尺度の高得点によるものとも考えられるが、薬局経営の考えを持つ学生は、経営・運営的職業にも関心が強くなるのではないだろうか。

A(芸術的)尺度は、各専攻とも大差はみられない。A尺度は、6つの尺度の内、最も粗点が大きく、音楽・美術・文芸などを対象とする職業が含まれる。本研究の被験者には、教育系の美術専攻生2名を除けば、芸術や文学専攻の学生は含まれていない。このことが反映して結果に差が生じなかったのではないだろうか。芸術や文学専攻生のデータを収集して、比較・検討することが必要であろう。

本研究では、傾向尺度の分析を主たる目的としてはいないが、ここで少し触れておこう。

Co(自己統制)尺度は薬学系が低く、教育系が高い。自分の衝動的行為や考えの統制の傾向が前者では弱く、後者では強いことを示している。教員養成系学部生は、教師のイメージと相伴って、冒険や危険を避けるべきだという構えが生じ、Co尺度の得点が低くなったのであろう。

Mf(男性-女性)尺度は教育系でかなり低いが、このことは伝統的性別役割観や職業観にとらわれていない傾向を示唆している。一方、理科系はややこだわっていることがうかがわれる。

St(地位志向)尺度は理科系の方が少し高く、Inf(稀有反応)尺度は専攻差がほとんどみられない。

Ac(黙従反応)尺度は、教育系が他専攻よりも低くなっている。教育系学生の大半は教師になることをめざして入学してきているので、教師に近い職業を除けば関心が低くなるのは当然だともいえるだろう。一方、薬学系の高得点は、多くの職業に関心を持っていることを示しているが、その理由は明らかではない。医学や看護学専攻生のデータも収集し、検討する必要がある。

表5 V P Iの興味領域尺度の専攻類型別得点とF検定の結果

	文科系 N = 50	教育系 N = 51	理科系 N = 97	F 検定 df = 2 / 195	多重比較		
					文-理	教-理	文-教
R	50.42 (9.95)	47.00 (8.98)	58.26 (10.69)	F = 23.07 **	***	***	+
I	50.16 (9.88)	47.31 (8.83)	54.74 (10.20)	F = 10.28 **	**	***	
S	57.34 (11.70)	54.10 (10.11)	51.19 (10.03)	F = 5.69 **	**		
C	56.04 (12.22)	53.75 (10.20)	50.67 (8.45)	F = 5.01 **	**	+	
E	52.32 (11.09)	46.90 (9.72)	51.57 (9.36)	F = 4.69 *		**	**
A	51.56 (9.59)	48.75 (9.63)	51.20 (9.76)	F = 1.34 NS			

()内はSD * ; P < .05 ** ; P < .01
*** ; P < .001 + ; P < .10

次に、専攻を文科系、理科系、教育（教員養成）系の3類型にまとめ²⁾、興味領域の6尺度の平均と標準偏差を求め、群間差がみられるかF検定および多重比較を行なった（表5参照）。その結果、A尺度を除く5尺度において群間差がみられた。RとI尺度では、理科系が文科系・教育系よりも有意に得点が高く、SとC尺度では、文科系が理科系よりも有意に高く、E尺度では教育系が文科系・理科系よりも有意に低いことを見出した。V P Iの結果と専攻の類型の間にも関連性があることが示唆される。

3. CMQの分析

CMQの専攻別および類型別得点は表6の通りである。³⁾理工系が最も低得点で、思索家型傾向

が強く、次いで農学系、そして薬学系は理科系の中では最も得点が高い。坂野(1985)はドイツの理科系学生の中で、医学部学生が他専攻生に比べて、芸術家型傾向が強いことを見出し、人間を具体的印象的に全体としてとらえようとするヒューマンな医学への志向ではないかと考察しているが、薬学部学生も医療という点で関係が深いので、このような結果になったのかもしれない。

一方、言語系が最も高得点で、芸術家型傾向が強く、次いで経営系、教育系と続く。類型別の群間差をF検定したところ、1%水準で群間差がみられ(F = 8.72, df = 2 / 195, P < .01), 多重比較により文科系 > 理科系 (P < .001), 教育系 > 理科系 (P < .01) の関係が見出された。

1) 両大学の学生のデータ収集にあたっては、滋賀大学教育学部那須光章助教授の協力を得た。厚く感謝いたします。

2) 教育系を独立して群分けを行なった理由は、①学生の専攻が人文科学・社会科学・自然科学・芸術学と多岐にわたっていること、②小学校課程では全教科の学習を必要としている——という点で文科系-理科系という2分法にはあてはまらないと考えたからである。

表6 CMQの専攻別・類型別得点

専 攻 別						類 型 別		
言語系	経営系	教育系	理工系	農学系	薬学系	文科系	教育系	理科系
7.73	7.55	7.04	5.41	6.44	6.84	7.66	7.04	5.88
(2.90)	(2.67)	(1.97)	(2.65)	(1.89)	(2.78)	(2.81)	(1.97)	(2.70)

4. VPIとCMQの関係についての分析

まず、全被験者のCMQの得点の平均と標準偏差を求めたところ、平均が6.64,標準偏差(SD)が2.64であった。そこで、全体の平均より1SD以上得点が高い(10点以上)者を芸術家型,1SD以上得点が高い(4点以下)者を思索家型として抽出したところ、芸術家型は31名(男子22名,女子9名),思索家型は45名(男子35名,女子10名)であった。⁴⁾

次に、芸術家型群と思索家型群の間にVPIの得点に差がみられるかどうか、t検定を行なった。VPIの興味領域尺度の得点(偏差値)と検定の結果を表7に示す。R尺度において、思索家型の方が芸術家型に比べて5%水準で有意に得点が高く、A尺度で芸術家型が思索家型に比べて1%水

準で有意に得点が高かった。そして、I尺度では思索家型の方が芸術家型よりも、得点に有意に高い傾向がみられた。

また、芸術家型の興味領域はAとS尺度が高いこと、思索家型の興味領域はRとI尺度が高いことがわかる。

次に、CMQとVPIの相関を求めたところ(表8)、R・I・C・Co・Mf尺度とは低いながらも有意な負相関を、A・St尺度とは低いながらも有意な正相関を見出した。この結果は、上述のt検定の結果とはほぼ合致している。

まとめると、芸術家型の学生は、音楽・美術・文芸などの芸術的領域での仕事や活動に対する好みや関心が強く、思索家型の学生は、研究や調査といった研究的・探索的な仕事や活動と機械や物

表7 芸術家型群と思索家型群のVPIの興味領域尺度の得点

	R	I	S	C	E	A
芸術家型群 (N=31)	49.87 (10.78)	49.84 (8.68)	56.52 (11.82)	52.19 (9.91)	51.77 (11.32)	56.64 (9.31)
思索家型群 (N=45)	55.84 (10.33)	54.11 (9.69)	53.36 (10.65)	51.87 (9.23)	49.58 (9.25)	49.14 (9.76)
t 検 定	t=2.400	t=1.943	t=1.199	t=0.142	t=0.913	t=3.310
df=74	P<.05	P<.10	NS	NS	NS	P<.01

3) 全般的に坂野の結果より得点が高いが、これは教示の差違によるものと思われる。坂野の場合、なるべく(芸術家型か思索家型かの)どちらかの項目を選び、どうしても決めがたい時のみ中間型の項目を選ぶように教示している。本研究ではこの点を強調せず、3つの項目の内、どれかを選ぶように教示したので中間型の選択比率が高くなっている。

表8 VPIの各尺度とCMQとの相関

	R	I	S	C	E	A	Co	Mf	St	Inf	Ac
CMQ	-.261	-.273	-.131	-.238	.000	.268	-.285	-.366	.247	-.093	-.0

** ; P < .01

を対象とする具体的・実的な仕事や活動に対する好みや関心が強いということになる。

職業興味をとらえようとするVPIの一部の下位尺度の妥当性が、信号系優位の型の学説に依拠したCMQを通して明らかになったといえよう。

本研究では、職業についての認知レベルをみる職業興味検査を指標としてとりあげたが、知的能力や人格的側面を有する職業適性検査や進路適性検査とCMQの関係を明らかにすることが、今後の課題となるであろう。また、医学系や法学系、芸術系、社会福祉系の学生が被験者に含まれていなかったため、これらの専攻学生のデータも収集して比較・検討することが求められよう。

引用文献

Holland, J. L. 1973 Making vocational choices : A theory of careers. Englewood

Cliffs, New Jersey : Prentice-Hall.

雇用職業総合研究所 1985 VPI職業興味検査手引
日本文化科学社

Pavlov, I. P. 1955 Selected Works. Moscow : Foreign Language Publishing House.

坂野登 1975 信号系優位の類型論と能力の発達について ソビエト心理学研究 20, 30 - 42.

坂野登 1977 潜在的ラテラルリティ及び認知様式の型の発達 京都大学教育学部紀要 23, 14 - 27.

坂野登 1985 脳を教育する 金子書房

渡辺三枝子・松本純平 1981 大学生の職業志向に関する研究—その1 雇用職業研究 17, 11 - 24.

渡辺三枝子・松本純平・館暁夫・松本真作 1982

Hollandの職業選択理論の日本人大学生への適用に関する研究(1) 進路指導研究 3, 2 - 9.

4) 専攻類型別の内訳は以下の通りである。

芸術家型は文科系19名, 理科系8名, 教育系4名。

思索家型は文科系7名, 理科系31名, 教育系7名。

5) 本研究で明らかにされた妥当性は、構成概念妥当性及び基準関連妥当性の一側面であるといえる。

付表1 CMQの項目

1. a ある出来事を実際にみたときよりも、そのことを文字で読んだり、人から聞いたりしたときの方が、はっきりと受けとれまたよく覚えていいる。ものの見方が抽象的である。
- ⑤ 自然や自分のまわりの出来事を実際あるがままに受けとることが多い。自分の感情をおさえたりすることは少なく、そのまま強く外に出す。ものの見方が具体的である。
- c a, bの中間である。
2. ④ 感受性が高く、まわりの印象を全体にまとめて受けとめる。見たもの聞いたものにたいして、そのまま直接受けとめるが、こまかく分析したり、探求しようとはしない。心の中で思い浮べるものは、具体的なことがらが多い。
- b 見たり聞いたりしたものをこまかく分析する。そのときの調子に左右されずに、ものの本当の姿をみようとする。心の中で思い浮べるものは、抽象的なことがらが多い。
- c a, bの中間である。
3. ④ ものを直接ははっきりと印象づけ、見たり聞いたりしたものをそのままの形で受けとめる。豊かな想像力をもっている。歴史や地理の時間では、具体的な事実をよくとらえ、出来事を生き生きと述べることができ、またありありと目の前に思い浮べることができる。しかし抽象的なことをつかむのは苦手で、理論的な説明もあまりできない。
- b 分析したり体系としてまとめることが得意で、抽象的な考え方をする。歴史や地理の時間では、たくさんの事実を全体にまとめることはよくでき、また理論はよくこなすが、具体的に述べるという点ではまだ十分でない。
- 事業をありありとはっきり心の中で思い浮べたりすることは苦手である。
- c a, bの中間である。
4. a 作文を書くときは、見聞きしたものを生き生きと感情をこめ、具体的に印象的に書くことは少ない。むしろ抽象的に一般的なこととして述べることが多い。話の筋は、気持の変化にしたがってではなく、論理的なつながりにしたがって書いて行く。
- ⑤ 作文を書くときは、見たり聞いたりしたことからくる直接受けた印象や気持の動きが文章の全体を占める。文章の流れは直接受けた印象や自分の気持の移り行きにしたがって書かれている。
- c a, bの中間である。
5. ④ 夢はテレビのようにはっきり、生き生きとしている。一つの場面がある程度続くと、次には別の場面の夢にというように、場面が次々につながりながら夢が進んでいく。
- b 夢はテレビのようなはっきりした印象はなく、断片的でとりとめがない。夢の各部分は、お互いに関連なくばらばらで前後の関連のないものが多い。
- c a, bの中間である。
6. ④ 感じやすく気持の動きが大きい。具体的で直接受けた印象にしたがって考える。文学、歴史、社会、芸術が好きである。耳で聞いて覚えるより目で見て覚える方がよい。
- b 抽象的な考え方をする。理論的な科学が好きである。覚えるときは、言葉に置きかえて覚える方がよい。
- c a, bの中間である。

○印のついているものが、芸術家型を示す項目である。

付表2 VPIの標準化集団の男女別の粗点

	男子	女子
R	4.3 (3.6)	2.5 (2.6)
I	6.2 (4.3)	5.5 (4.1)
S	4.4 (3.6)	6.1 (3.8)
C	3.3 (3.1)	3.6 (3.1)
E	4.6 (3.4)	3.6 (2.9)
A	5.7 (4.2)	6.7 (4.3)
Co	8.1 (4.0)	8.7 (4.0)
Mf	6.8 (2.7)	5.1 (2.4)
St	9.1 (2.2)	8.5 (2.8)
Inf	4.1 (2.7)	4.1 (2.6)
Ac	11.4 (5.3)	11.9 (5.3)

()内はSD